

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定 (実施結果))

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①各教科・科目及び総合的な探究の時間の学習到達目標を設定し、学力調査等で到達度の検証を行う。併せて、生徒の学習意欲や探究心を高める組織的な授業改善を推進し、学習指導要領(平成30年告示)を踏まえた教育課程の編成に取り組む。</p> <p>②全教科で授業のユニバーサルデザイン化を図る。</p>	<p>①主体的・対話的で深い学びを実現し、生徒が共に学び、考えを深め、探究してこうとする意欲を育む。</p> <p>②生徒に必要な合理的配慮・授業のユニバーサルデザイン化を進める。また、学習評価を生かした教育活動を行う。</p>	<p>①・授業の中で「問い」を精選する。</p> <p>・TTの授業研究を進める。</p> <p>・「生徒による授業評価」の向上目標ポイントを教科ごとに定める。</p> <p>・授業研究部会が中心となり、授業力向上のための研修テーマを定め、授業のねらいを示した授業計画書を作成し、効果的な授業観察・授業研修を実践する。</p> <p>②面談等とおして生徒の状況を把握し、リフレクション(内省)を意識的に働かせ授業・指導改善につなげる。</p>	<p>①・「生徒による授業評価」の項目8(授業でわからないことがあったら、自分で聞いたり、調べたりした)について、生徒の回答が「かなり当てはまる」と「ほぼ当てはまる」を合わせて85%を上回り、かつ、1回目より2回目改善した数値となった。</p> <p>・授業観察や授業見学・授業力向上研修により、教職員が授業力向上につながった点についてアンケート調査し、集計・考察の結果から、授業改善の成果があったと検証できた。</p> <p>②生徒の学習評価の推移を考察する。</p>	<p>①・生徒による授業評価の項目8については、「かなり当てはまる」と「ほぼ当てはまる」を合わせると、1回目2回目ともに85.2%となり目標の85%に届き、授業に対する生徒の満足度は高いといえるが、1学期から2学期に向けて考察のポイントを意識した授業づくりを行った割には、授業改善が進んだといえる数値を得られなかった。</p> <p>・授業研究部会を中心に、授業改善における学校全体の重点目標を「生徒が主人公になる授業づくり～①TT、②トップアップ③ICTの活用～」として取り組んだ。授業見学研修期間に、学校運営協議員の方や他校職員の参加もあった。</p> <p>教職員によるワールドカフェ方式を用いた研究協議とアンケート調査の結果から、各教科がテーマに基づく授業づくりのアイデアを共有でき、今後の授業改善に向けての検証を行った。</p> <p>②生徒との面談や補習の機会等を確保したが、生徒の学習評価の推移を考察する機会には設けなかった。</p>	<p>①・整備されているWiFiを活用し、クロムブックによる生徒の調べ学習や新たな教育機器の活用等を進め、課題研究等の取組を進める。</p> <p>・初任研修や2年次・5年次研修の研究授業を含めて、様々な立場や経験に基づいた授業づくりの見学や研究協議の機会を設け、教科の枠組みを超えた授業改善につながる計画を進める。</p> <p>②「全員がわかる授業」の実現を目指すとともに、発展的な内容を学びたい生徒への対応についての改善を図ることやチームティーチング型の授業における二人の担当者指導支援の方法について協議する時間を確保したい。</p> <p>また、教員会や学年会の議題として、生徒の学習面の取組や生徒自身の評価の推移等にも着目した情報交換を行い、教科の枠組みを超えた授業改善の課題を共有したい。</p>	<p>①・BYODのWifi環境が整い、Chromebook及び生徒個人端末を活用した授業実践により、学習の動機付け、理解促進が図られている。</p> <p>・自分で解決策を考えることができる授業を目指している点とそれに対して生徒が自分で調べたり、理解しようとする力を身につけたりしていくところは素晴らしい。さらに、他者の意見と自分の意見を比べ、協調性も深めることができる良い環境である。</p> <p>・おおむね目標が達成されている。</p> <p>・「あてはまらない」は15%程度だが、少数の声に対してもフォローできるとよい。</p> <p>②・チームティーチングが効果的に行われるためには、授業のねらいの明確化と生徒の理解状況や認知特性のアセスメントが必要だ。</p> <p>サブティーチャーは、「補助」や「見守り」ではなく、生徒にとってはメインと同じ指導者であることを踏まえ、チームティーチングのスキルの向上を図ってほしい。</p> <p>・生徒からの意見が聞けないことが残念である。</p>	<p>①・生徒からの声を汲み取って授業改善の方向付けを定めていくことができた。</p> <p>・ICTを利活用した授業方法の研究や校内の活用推進およびICT教材の開発などを行い、授業改善を進めている。</p> <p>・「全員がわかる授業」の実現を目指す視点に基づく授業改善と、授業のユニバーサルデザイン化を推進していき、一定の成果を得た。今後は教員個人の取組を教科単位や学年単位での組織的取組にさらに発展させていくことが課題である。</p> <p>・生徒が居心地の良さを感じられる学級づくり、わかりやすい授業づくり、主体的に取り組める有意義な学校行事づくりをテーマとし、その取組の中で相互理解を深め、インクルーシブな学校づくりにさらに取り組む。</p> <p>②年度のはじめや夏季休業時2学期末等に担任との面談を実施し、学習の状況や進路の希望、生活状況等についておおむね把握することができた。特に、成績不振の生徒については、保護者を交えた面談や補習指導等の対応を行った。学習への支援は、教員と生徒の両者の努力や工夫が必要となるので、生徒一人ひとりの学習状況の推移を見つめていく授業運営・学級経営が課題である。</p>	<p>①・「一人一台端末」をより活用できるよう、WiFiを使った調べ学習や課題研究等の取組を進め、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を一層進める。生徒による授業評価の結果を分析し、改善策を検討する。</p> <p>・授業研究部会等の活動を通して、組織的な授業改善のためのプランを教科ごとに策定し、実施する。</p> <p>・県内外の先進的な実践に係る情報収集を行い、研修を通して共有を図りながら、新しい手法を探る。</p> <p>・様々な視点からユニバーサルデザイン化を推進する。</p> <p>・チームティーチングでは、サブの教員が単なる補助・見守り役ではなく、同等の指導者としての役割を担うよう各教科で確認をし、2人チームで授業を展開し、指導を重ねていくよう、さらに推し進めていく。</p> <p>②「生徒による授業評価」ばかりでなく、各教科、科目の担当者で、生徒からの情報収集や授業スキルの向上につながる工夫を協議したり、評価の在り方について検討したりする。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①基本的な生活習慣を確立し、生徒同士が主体的にかかわり合い相互理解を深めるインクルーシブな学校づくりに取り組む。</p> <p>②部活動・生徒会活動や学校行事の質を一層高め、生徒の主体的な活動を促進する。</p>	<p>①基本的なルールやマナーを守り、生徒自身が安全・安心な学校づくりに寄与する態度を育む。</p> <p>②創立50周年という節目に生徒主体の学校行事を企画・運営する。</p> <p>・学校行事や部活動等の様々な場面で、生徒の主体的な活動を支援する。</p> <p>・校外施設を利用して、学校行事や部活動を</p>	<p>①遅刻指導や交通安全指導の継続や専門家と連携した教育相談による支援等を活用し、生徒が居心地よいと感じる学習環境づくりに取り組む。</p> <p>・昨年度新たに確立しなおした教育相談体制に基づき、SCやSSWと連携した適切な相談業務・支援に取り組む。</p> <p>②・新たな行事のあり方を模索し、生徒の主体的な取組や運営態度</p>	<p>①・前年度より遅刻指導の対象となる生徒の延べ人数を減らすことができた。</p> <p>・交通安全に係る苦情件数を前年度より減らすことができたか。</p> <p>・SCやSSWと連携し、個々の生徒の支援や情報の共有を図ることができた。</p> <p>②・生徒の意識に残る学校行事を行うことができたか。</p> <p>・歌やロゴづくりを実現できたか。</p> <p>・北斗祭の生徒対</p>	<p>①・月に5回以上の遅刻を数えた生徒数は、残念ながら昨年度より約1.3倍となった。</p> <p>・自転車による苦情件数は8件で昨年度の16件から半減したが、登下校中の交通事故が5件発生した。</p> <p>・かながわ子どもサポートドックが始まり、生徒の様子を知る機会が増え、複数回の面談や専門家による支援、情報共有を図ることができた。</p> <p>②・等々力アリーナで行う体育祭や社会的な制限を伴う文化祭などでは生徒たちの工夫・改善が随所にみられ、行事運</p>	<p>①・進路決定後の3学年の遅刻者が増える傾向がある。また、同じ生徒が繰り返し指導を受けないような指導方法を検討する。</p> <p>・自転車通学をする生徒対象に交通ルールの講習会を行う。</p> <p>・かながわ子どもサポートドックを組み込んだ教育相談体制を再構築する。</p> <p>②・学校を取り巻く環境などが少しずつ変わらな中で、学校行事等の生徒の活動は昨年度にとらわれない工夫や改善を促し、学校行事や生徒会活動ならで</p>	<p>①・ルールや規則を守る動機付けは難しいと思う。ナッジ(行動経済学)などの知見を活用し、教職員が工夫を楽しむことが大切だと考える。</p> <p>・遅刻指導については、生徒のみへの指導なのか。保護者への協力要請も必要かもしれない。卒業後の進路決定後の遅刻増については、気を緩めないように言葉かけが大切だ。</p> <p>・交通安全については、関係機関と協力し、事故件数を減少させてほしい。</p> <p>②50周年ということで、体育祭では生徒たちが一丸となって楽しんでいる姿が見られた。全校生徒と職員によ</p>	<p>①・学校のルールについて、違反を重ねる生徒には、保護者と連携して指導を行った結果、身だしなみに気を付ける生徒が増えた。遅刻に関しては前年度より指導対象者が増えたので、指導の仕方を検討していく必要がある。</p> <p>・交通関係の苦情は減少したが、登下校中の交通事故発生件数が5件あったので、交通ルールを守る意識づけが必要である。</p> <p>・かながわ子どもサポートドックは、生徒自身がアンケートに回答しないとスクリーニングができないので、全員回答させる必要がある。</p> <p>②・部活動の加入率はコロナの時期を通して現状維持もしくは若干の増加を見ることができた。</p> <p>・仮設校舎に伴う郊外の施設を利用させていただいた活動を通して</p>	<p>①・服装やスマホの指導と同様に、遅刻指導についても保護者と連携して指導していく。</p> <p>・交通ルールを確認し意識づけを行うため、全校生徒に対して交通安全テストを実施する。</p> <p>・来年度は、かながわ子どもサポートドックが校内のシステムを使用することになるので、全員スクリーニング対象に入ることができるようになる。来年度もサポートドックのやり方が変わるので、有効的な活用方法を検討する。</p> <p>②・4月の部活動オリエンテーションからの入部までの流れを見直し、部活動を見る時間を多くして興味を促す。</p> <p>・校内の活動に工夫をこらし有意義なものにしたい。</p> <p>・以前の活動に戻りつつある学校</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価(3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
		行う。	の育成を図る。 ・「部活動ハンドブック」に基づいた指導を行い、部活動の加入率を上げる。	象アンケートで、生徒が主体的に取り組むことができたか。 ・5月時点での部活動加入率が60%を超えたか。	営が活性化してきた。 ・創立50周年の記念歌やロゴづくりを完成させた。 ・部活動加入率は、5月の時点では60%をわずかに超え、若干の増加がみられた。	はこの教育効果を高めたい。 ・4月の新入部員を確保するため、オリエンテーションから部活動見学までを魅力的・主体的に行う体制をつくり、部活動加入率を向上させたい。	るダンス動画も良かった。	レベルの高いものとなった。 ・学校行事は年ごとに変わる状況に生徒は柔軟に対応することができた。ただ制約が多い中での活動なので過去のルール等も見直し柔軟に対応する必要がある。	行事もあるが、生徒たちのエネルギーが常に新しい行事への取組に向くように支援する。 ・この4年間の活動を通して身につけた主体性・協力性をもとに、ますますの活性化を図れるよう生徒の自己実現の支援を行う。	
3	進路指導・支援	①生徒の社会的・職業的な自立へ向けたキャリア教育を充実させ、生徒一人ひとりの個性を生かした進路実現・自己実現の支援に取り組む。 ②成年年齢が引き下げられることを踏まえ、シチズンシップ教育の充実を図る。	①・総合的な探究の時間や進路ガイダンス、進路講演会等の振り返りの時間を確保し、身につけた資質や能力を進路活動・進路実現につなげる支援を行う。 ・卒業生に対するアフターフォロー体制を整える。 ②消費者教育・政治参加教育の充実を図る。	①・「ワークシート」や「振り返りシート」の点検や面談等とおして、生徒の進路実現に向けた取り組み意欲の向上を図る。 ・卒業後のアフターフォロー体制に係る担当者を決め、卒業生へのフォローや在校生との情報共有を行う。 ②時事問題に照らした消費者教育・政治参加教育を実施する。	①・進路実現・自己実現への支援上のツールとして、「ワークシート」や「振り返りシート」を活用することができたか。 ・卒業生や在校生からの相談に対応することができたか。 ・在校生及びその保護者に情報を伝えることができたか。 ②SNSの問題や政治・社会参画の視点から生徒向けの講演会を実施することができたか。	①・上級学校調べやSDGs等の探究学習などで生徒の主体性を引き出す「ワークシート」や知識の定着を図る「振り返りシート」を活用したことで、仲間と協働し、広い視野で物事を考える取組が見られた。 ・卒業生へ卒業後のアフターフォロー体制について説明した。また、就職した卒業生の職場に向いたり、電話連絡で近況報告を確認したり、相談に応じた。 ・進路実績状況や地域の諸問題とその対処法等について保護者に情報提供した。 ②SNSの活用上のトラブルを予防する講演会や消費者教育や金融教育に取り組んだ。	①・生徒が主体的に探究活動を行えるよう幅広い教材について取り組むことが可能な学習形態を検討する。 ・校内人事の構成や職員の異動によっては卒業後のアフターフォローが難しくなることがあるので、卒業生の情報の引継体制をつくる。 ・進路説明会や保護者した卒業生の職場に向いたり、電話連絡で近況報告を確認したり、相談に応じた。また、多様な進路に応じた支援を行えるようなフォロー体制を整える。 ②18歳から成人であるということの自覚をうながすべく、金融教育や社会参画の実施を検討する。	①アフターフォローは、在学中からの生徒個々の情報が有効であるため、その保存と蓄積の工夫を期待する。 ②・シチズンシップ教育は、行動や課題解決を促すためのリファレンスを知ることが大切だと考える。教員が常に社会の動きにアンテナをはる事が指導に生かされると考える。 ・保護者がSNSを慎重に利用することで、子どもたちの意識も変わると思うので、利用上の危険性等について大人が説明・実践していくことが大切だ。	①在学中から年次ごとの生徒情報を新たな学年、新たな担当者に引き継いだ。卒業後の相談体制について資料とともに説明し、卒業生の相談体制が機能している。 ②SNSについては、新入生は入学してすぐにルールの確認を行った。行事の時は、写真や動画の取り扱いについて注意喚起を行った。その結果、未承諾の生徒の写真がSNSに投稿してしまうトラブルは減ったが、個人を傷つけてしまうような投稿をするトラブルは発生している。	①総合的な探究の時間を主として進路に関する多様な情報を提供・共有すること、各教育活動が進路実現と自己実現の関連を図りながら生徒支援を行う。 ② SNS に対しての講演会は、2年連続オンデマンドによるものであったが、次年度は講師によるオンライン講演会を行う。実際のやり取りの中で SNS の利用によるトラブルや情報リテラシーを養う。
4	地域等との協働	①地域との様々な協働を推進し、地域唯一の高等学校として、共に発展する学校づくりを進める。 ②インクルーシブな学校づくりのために、特別支援学校や地域の支援施設や企業と連携する。	①地域の教育資源を活用したり、本校の施設を開放したりすることで地域との連携を図る。 ②インクルーシブな学校づくりのために地域資源を活用する。	①地域と連携した防災講話・防災訓練等を実施する。 ②・分教室との連携や地域への訪問を行う。 ・インクルーシブ教育の一環として職場体験実習を計画する。	①社会状況や過去の災害経験等を踏まえた訓練等を地域と連携して行うことができたか。 ②夏季休業中等の職場体験実習に参加する生徒が延べ50人を超えたか。	①地震や風水害に関する学習を実施し、防災意識を醸成したうえで、宮前消防署と連携した防災訓練を行った。 ②インクルーシブ教育関連の体験実習や見学会への参加については、全学年で延べ61人の参加があり、地域資源を活用した貴重な体験学習となった。	①防災学習の発展的な形態として、移動途中や外出先で災害に遭遇した際に、どのような避難行動をすべきかを考えられるようなプログラムを検討する。 ②特別支援学校や地域との連携を密にし、より多くの生徒が参加できる体験学習の場を確保する。	①消防署だけではなく、地元の町内会等との連携も図ってほしい。 ②高津支援学校分教室との交流では、北斗祭への参加をはじめ、日常的な学校生活を支えていただき感謝している。場を共有することが人の交流につながることを実感している。引き続きよろしく願いたい。	①2回の防災学習で防災に関する基礎知識の定着を図った。また、避難訓練を実施し、消防署員の講話も聴くことで、実際に取るべき行動についても確認した。 ②全県的な課題として、インクルーシブ教育実践推進校の受検者数が募集定員に満たない現状の中、本校としては、生徒相互の良好な人間関係の構築を踏まえた学校づくりの特色を説明し、様々な広報活動を展開することができた。	①災害発生時の状況をより具体的にイメージしたうえで、臨機応変な対応を取れるように、机上学習と訓練内容の改善を図る。 ②・学校関係者や地域の人材を活用し、インクルーシブな視点からの講演会や体験学習の場を広げていく。
5	学校管理 学校運営	①安全・安心な教育環境の整備と教育活動の充実・改善に努め、ユニバーサルデザインを取り入れたより快適な学習環境づくりを進める。 ②教職員が生徒と向き合う時間を確保する。また、学校運営についての情報発信に努め、信頼と期待に応える学校づくりに取り組む。	①清掃活動を充実させ、校内美化・安全管理を踏まえた学習環境の整備に取り組む。 ②生徒への面談や補習、部活動指導、進路相談等に係る時間を確保する。	①学習環境のフロントゼロやごみの分別収集等を徹底し、衛生的かつ安全に利用しやすい学級運営を行う。 ②時間制作成を工夫する等を含め、教職員のスムーズな会議運営、業務進行を進めることで生徒と向き合う時間を確保する。	①清掃用具や足ふきマットを備え、活用できたか。 ②・時間割の中に会議を割り当てることができたか。 ・学年会議やグループ会議、企画会議、職員会議において、目的と運用に係る明確性の高い会議資料を作成し、時間を短縮した会議運営を行うことができたか。	①トイレのドライフロア清掃にモップを導入した。また、全校でプラスチックごみの分別を開始した。 ②・1グループの会議を時間割の中に割り当てることができた。 ・企画会議の進行管理や各グループの提案資料の細部確認と根拠となる資料等の不足から、会議の時間短縮に至らないことが散見した。	①プラスチックごみの分別回収開始を機に、ごみの分別をさらに徹底できるよう意識喚起に努める。 ②インクルーシブ教育推進に関連する業務や学年行事の企画、提案等について、所掌する組織や学年間の関連業務を周知し、各グループリーダーが円滑な進行管理に努める。	①・先生方が、生徒の卒業後の生活をイメージすることで、先の目に見えないゴールを目指すのではなく、マイルステップで「一歩手前から」の支援ができると思う。 ・文化祭の開催時はゴミ箱が大量になっていた。今後はゴミがない状態にし、朝定期的にゴミを回収する計画がよいと思う。 ・プラゴミだけではなく、ゴミの分別を徹底したい。	①トイレ清掃やゴミ分別には改善がみられたが、主に仮設校舎の教室及び共用部分で、清掃やゴミ処理の行き届かないところがあった。 ②働き方改革の一環として、会議の時間短縮化を目指したり、明確性の高い資料作りに取り組んだりしたが、それには至らなかった反省を踏まえ、年間計画を見通した会議運営をすることが課題である。	①ゴミ分別の徹底を促すと共に、清掃頻度の見直しを含めて清掃指導を強化し、美化の意識を醸成する。 ②令和6年度は新たな学校教育計画の始まるの年度であり、インクルーシブ関連の業務を各グループ、各学年に移管することとし、企画会議を中心とした各組織の進行管理とグループ横断的な取組を推進し、容易にデータの保管・活用をできる体制を築く。